



基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

虐待防止委員会主催

「令和7年度障害者虐待防止研修」

主任児童指導員 宮川 奏子

6月17日(火)、全職員を対象とした障害者虐待防止研修を開催しました。昨年度に引き続き、沖縄県社会福祉士会代表理事・会長の石川和徳氏を講師としてお招きし、「小さな勇気で守る人権～障害者虐待を防ぐその一歩に～」をテーマに、権利擁護の重要性、障害者虐待防止法と精神保健福祉法改正、虐待防止措置及び通報の義務化、病院職員としての役割の理解についてご講義頂きました。いくつかの事例を交えてお話をいただき、利用者やご家族、第三者の視点になって考える中で、自己決定を尊重するということが、日々のケアや関わりの中に潜むリスクについて改めて学ぶことができました。研修後、受講された皆さんより「日頃行っているケアが適切かを振り返る機会になった」、「自分の感性を磨き、日々疑問を持ちながら、利用者に寄り添っていききたい」、「専門職としての自覚を持ち、改めて意識していきたい」といったご意見も寄せられました。

私たち職員はより良い支援をしたいと思いつつも、日々行うケアや関わりが「適切な支援だったのか」「別の方法があったのではないか」と思いつくことも少なくないと思います。私たちがいる環境は、支援の難しさ、スキル不足、コミュニケーション不足、感情労働、人員不足、ストレスなど、虐待が起き得る要因となるリスクを抱えている、ということも自覚しながら、一人ひとりの利用者さんと向き合い、考え続け、また、「多職種チーム医療」で倫理や権利擁護に取り組んでいくことを大切にしていきたい、と改めて感じた研修でした。

● 地域連携室だより

精神保健福祉士 池間 ゆかの

地域医療連携室では初診の相談だけではなく通院中、入院中の方の経済的な相談、就労に関する相談、社会資源に関する相談など様々な相談をお受けしています。患者さんやご家族の方、支援者からの相談など様々な方からのご相談があります。地域医療連携室の場所は受付隣となっておりますので、お困り事がございましたらぜひお気軽に連携室までお声かけください。

院長



ふくじ やすひで
福治 康秀

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本森田療法学会理事。
日本病院・地域精神医学会理事。
琉球大学医学部 臨床教授。

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・クロザリル外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数

353床

- ・精神 151床
(一般精神・クロザピン専門・精神科救急)
- ・アルコール依存症 44床
- ・児童思春期ユニット 4床
- ・重症心身障がい 90床
- ・医療観察法 37床



路線バス 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分

自動車 那覇市から40分沖縄自動車道道金武インターから名護向け5分

お問い合わせ

時間 **8:30 ~ 17:15**
(土・日・祝日・年末年始以外)
TEL **098-968-2133(代)**
内線 **231・234**

地域医療連携室(直通)

TEL **098-968-3550**
FAX **098-968-7370**

治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医長 木田 直也



クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では2010年からクロザピン (CLZ) 治療を開始し、登録症例数は延べ441例になりました。2025年7月のCLZ登録症例は1例で、他の精神科病院からの紹介患者さんでした。CLZ導入前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために、隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動が消失、もしくは軽減し、ほとんどの症例で隔離や身体拘束は解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。

当院でのCLZ治療や沖縄県での地域連携の実際については、ノバルティスファーマ社の医療関係者向けサイトのクロザリル/クロザリル適正使用の流れ (<https://www.drs-net.novartis.co.jp/dr/products/product/clozaril/point/>) でも動画が公開されていますので、ご参照ください。

訪問・デイケアのご紹介

訪問看護師長 翁長 稔

令和6年度の年間訪問件数は、延べ7,046名、1日平均29.7名でしたが、今年度は、昨年度末より新規利用者の件数が増え、現在、訪問看護登録者数は222名となりました。それに伴い、1日平均30.3名と多くなっており、訪問看護の需要が高まってきた結果ではないかと思えます。

気温も高くなり熱中症の危険性が高くなっていますので、訪問看護で自宅へお伺いする際は、体調管理や住宅の設備に問題がないかなども含め熱中症予防対策についても説明させて頂いています。その他、服薬管理状況や対人関係や地域で暮していく中で困っている事はないか等、対話を通して問題解決への糸口を一緒に考えていきます。

ご高齢で1人暮らしの方も多くおられますが、すべての利用者さまが、住み慣れた場所で安心して生活していけるよう、利用者さまの気持ちに寄り添い関わっていきたく思います。

看護部教育担当からのご挨拶

教育担当師長 砂川 静香

看護部では、今年度も5月から2月までの長期にわたり、4施設から看護学生を受け入れております。各校の看護学生たちが安心して当院での学びを深められるよう、各病棟の実習指導担当者と部門の方々が協力し看護学生の支援を行っています。

また、8月には看護専門学校の就職説明会に参加し、当院の魅力を伝える広報活動を行いました。未来の仲間との交流を持ち貴重な機会となりました。

今後も看護学生たちが現場での学びを通して、看護の魅力ややりがいを実感できるよう、引き続き支援していきたいと考えております。

新しいEMISの運用状況

主任心理療法士 前上里 泰史

8月に入り、全国各地で大雨が多く、北海道、青森県、秋田県、富山県、石川県、京都府、広島県、山口県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、鹿児島県の14道府県で被害が発生しております。人的被害、住宅被害等数多く報告されており、亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて、2025年3月から新しいEMIS (広域災害・救急医療情報システム) の運用が始まっております。EMISとは、被災した都道府県を越えて災害時に医療機関の稼働状況など災害医療に関わる情報を共有し、被災地域での迅速かつ適切な医療・救護に関わる各種情報を集約・提供することを目的としたシステムです。新しいEMISの運用が始まってから、日本DPAT隊員をはじめ関係者に、全国各地で起きている災害、警戒レベルや警報の発出等が随時お知らせされるようになりました。速やかな情報共有がされるようになり、備えと対応が迅速にできることが期待されます。各医療機関が被災すると自施設の被災状況や医療状況を入力いただくことになり、それによって迅速な応援につながります。新しいEMISに予めログインし、入力方法等ご確認いただくことをお勧めいたします。